

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600352		
法人名	株式会社 ユニマツリティアメント・コミュニティ		
事業所名	みしまケアセンターそよ風 萩ユニット		
所在地	静岡県三島市萩196-1		
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果市町村受理日	令和5年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2270600352-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 2月 .27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の下、それぞれの方が役割をもち、支え合い、個性を發揮する中で共同生活を送ることにより、認知症の進行が少しでも穏やかになるように意図しサービス計画の立案、食事、入浴等その方に合わせた介護、生活相談、健康管理、緊急時の対応、行政手続きの代行、理・美容サービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、センター長を中心に併設する居宅・通所事業所と共に各種会議や災害対策訓練を行い、協力・連携した運営を行っている。法人は、法人内グループホーム連絡会や職員研修、個人面談の仕組みを整え、管理者や職員のための職場環境作りを支援している。管理者・職員は、朝礼や全体会議にて情報共有を図り、職員が記録したケアカルテを基にカンファレンスを行い、介護計画作成と支援の実践につなげている。管理者は、市のグループホーム連絡会や認知症キャラバンメイト活動にも積極的に関わり、行政・他事業所、地域との協力関係を築いている。一筆箋・写真の送付や玄関先・SNSを活用した家族面会を行って関係継続を図るとともに、「家族アンケート」「嗜好・満足度調査」など、利用者・家族からの意見の聴き取りに注力している。感染防止対策として定期的な換気・消毒を行うとともに、温度・湿度管理による快適な環境作り注力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、事業所理念を復唱し確認、実践できるように支援しています。	法人は、センター長による併設の居宅・通所事業所との三役会や法人内グループホーム事業部会議の仕組みを整え、法人理念の共有を図っている。管理者・職員は、日々の朝礼や毎月の全体会議にて情報共有を図り、法人・事業所理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により自治会の行事が中止となっており参加できないが職員と一緒に散歩等で外に行かれた際ご挨拶し交流を図っています。	コロナ禍の中、地域行事への参加を制限する状況が続いているが、自治会の回覧板や事業所周辺の散歩時の挨拶など、近隣住民との交流を心掛けている。制限解除を見据えて、キャラバンメイトによる小学校等の訪問活動を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年11月の介護の日に、三島市役所に市内のグループホーム事業所が写真展示をし理解を深めて頂いています。また管理者が認知症キャラバンメイトとなっており定期的に市内の小学校等を訪問し理解を深めて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響により行政から緩和対応に伴い書面開催しています。開催後、議事録とアンケートをご家族と行政に送付し、ご意見やご要望を伺いサービスの向上につなげています。	2か月に1回、書面にて開催している。事業所月次報告、広報誌「そよ風」とともに、運営推進会議議事録を家族及び委員に送って要望・意見の聴き取りを図り、更に次回会議にて報告して、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	三島市内のグループホーム連絡会の場や管理者が認知症キャラバンメイトの会合等で情報交換や相談しています。運営推進会議の議事録を提出し市の見解を伺いながら交流を図っています。	グループホーム連絡会参加や運営推進会議議事録提出の際には、情報共有・意見交換を図っている。管理者は、介護の日の展示の協力、認知症キャラバンメイトの講師や認知症サポーター育成にも積極的に関わり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナウイルスの影響により2ヶ月に一度、身体拘束委員会をセンター長により書面開催し議事録と研修資料を回覧し共有している。	身体拘束適正化委員会は、2か月に1回、センター長と併設する事業所委員と共に開催している。委員会議事録により職員への周知を図り、全体会議にて職員研修を行い、理解度を確保する仕組みを整えて、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は研修を受け利用者様の尊厳を守ることをセンター全体で共有し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様があり、権利庇護、成年後見人制度に必要な情報を提供しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、法改定時には管理者より、ご家族様に内容を説明しご理解頂ける様に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議議事録、送付時のアンケートや日々の電話連絡等でご意見、ご要望を伺っています。ご意見箱を玄関に設置しています。	「家族アンケート」の実施や、運営推進会議議事録に要望・意見欄を設け、常に家族からの意見を聴き取る仕組みを整えている。利用者の日々の様子を一筆箋で伝えるとともに、家族の希望に合わせた玄関先やSNSを活用した面会を行い、家族とのコミュニケーションに役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンス、日々の申し送り等で職員と意見交換し反映しています。	管理者は、日々のミーティング時やユニット会議の場を活用し、常に意見を聴く機会を設けて、迅速な対応を心掛けている。法人は、年1回の個人面談にて、職員個々の能力の評価と課題の解決に向けた話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努め給与水準は個々の能力を評価し、契約更新時、賞与考課に反映しています。日々の業務の中で職員と意見交換を行い職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせて研修を受ける機会を設けて適材適所の役割と苦手の克服は成功体験の情報を共有しレベルアップを図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市内のグループホーム連絡会など管理者が参加し同業者との交流を図りサービスの向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の実態調査にて、ご本人様と面談させて頂き日常生活の中でのご要望や困っていることを傾聴しサービスにいかし信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の面接にて、ご家族様の困っている事や不安に思っていることを傾聴しサービスにいかし信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の想いを傾聴し必要とされているサービスを見極めセンター長、居宅のケアマネジャーと連携をとり適したサービスが提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を作り、ご利用者様それぞれに役割をもって頂く支援を行っています。できる事はご利用者様にお願ひし、出来ないことをサポートさせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を中心に、ご家族様と意見交換をさせて頂きながらご家族の絆や信頼関係を築いて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナウイルスの影響により、ご家族様との外出や外泊が難しい状況ではありますが、電話やビデオ電話、手紙等で関係の継続に努めています。	コロナ禍による訪問・面会の制限が続く中でも、ビデオ通話や電話を活用し、馴染みの人との関係継続を支援している。請求書等の送付時に利用者の写真や手紙を同封しているが、更にLINEを利用して写真を送るなど、家族の希望に合わせた対応を、常に心掛けている。	

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを定期的に行いご利用者様同士がコミュニケーションを取りやすい環境を職員が必要に応じて間に入れて頂きながら支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族様が行政手続き等の依頼や介護相談に来られることがありますので支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中でご利用者様のご要望やご意見を伺い職員間で情報を共有し、ご本人本位の支援が行えるように努めています。	管理者は、入居時に利用者や家族の思いや意向を丁寧に聴き取り、病院等からの事前情報を基に、センター長・居宅事業所ケアマネと共に情報共有を図っている。職員が日々の支援で気づいたことを連絡ノートやカンファレンスで確認しながら、利用者の意向に沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時の面談や居宅支援事業所から情報を基に日々の生活の中で、ご本人様やご家族様から情報を頂き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で日々の申し送りやカンファレンスで情報を共有し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、計画更新や見直しの必要なご利用者様についてカンファレンスを行っています。ご本人様やご家族様の意向や主治医の指示をふまえて介護計画書を作成しています。	毎月担当者会議を開催し、タブレットのケアカルテや介護援助計画表等の職員の記録を基に、担当職員の評価、主治医や訪問看護師の情報、家族の意見も加えたカンファレンスを行っている。ケアマネジャーを中心に、それぞれの意見を活かした介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテに記入し、他、日々の申し送りや連絡ノートを活用し情報を共有し実践、介護計画の見直しに活かしています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談し経済状況、ご家族様の健康状態も考慮し可能な限り取り組んでいます。。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス前はデイサービスのボランティアの訪問を楽しまれました。地域資源を把握しご利用様が安全で豊かな暮らしを楽しんで頂ける様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4病院から月に1~2回、往診に来て頂いています。必要に応じて歯科は訪問診療をして頂き皮膚科や眼科等の受診や緊急時の受診等は、ご家族様に協力を得たり職員が対応させて頂いています。	主治医の月1回~2回往診、看護師の週1回訪問により、健康管理にあたっている。かかりつけ医への通院支援は、家族の協力を得て継続している。利用者の情報は、連絡ノートやタブレットの往診記録に入力して情報共有を図り、連携した適切な対応に尽力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連携し週に1回の健康管理やご利用者様に対する対応や医療面での指示等を得ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院のソーシャルワーカーや担当看護師よりサマリーや電話等で情報提供して頂き入院中のご様子や伺っています。退院後の対応等については退院カンファレンスにて情報を得て連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について入居時にご利用者様、ご家族様に指針を説明しに同意して頂いています。終末期の施設での対応については主治医の診断のもと、ご本人様やご家族様に説明し方針を決定後、施設での支援について話し合い同意を得ています。	重度化や終末期の事業所の対応は、入居時に利用者・家族に説明して同意を得ている。緊急時には再度家族へ説明をして、家族の意向に沿った対応を心掛けている。看取りに関する指針とマニュアルを整え、職員研修を実施している。	重度化や終末期の対応について、入居時に別途資料にて、利用者・家族へ説明されているとのことですが、「看取り加算」を申請しているとのことですので、事業所の対応を明確にするよう、重要事項説明書への記載を含め、検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルで職員に周知しているがスキルに個人差も見られる。応急手当や初期対応については日々の業務を通じて実践力を身につけていくように体制を築いています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水総合、火災、夜間想定と7月、11月にデイサービスと連携を図り避難訓練を行っています。職員間で情報共有し災害対策に取り組み災害備品は3日間を目途に備えています。	年2回の災害対策訓練は、「火災」「夜間避難」を想定して実施し、職員の情報共有を図っている。災害備蓄品は、本社管理により3日間を目途に備えている。発電機を備え、併設のデイサービスと連携して、災害対策に取り組んでいる。	災害対策訓練は、都度テーマを変えて実施していますが課題改善には次回訓練への継続が必要なことから、課題を継続した訓練計画と実践を期待します。令和5年度末までの災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、地域住民との連携を含めた計画策定を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関し事業所のトイレや風呂場に提示して職員が情報を共有し問題の発生防止に努めています。	プライバシー保護に関し、定期的に研修を行い、事業所内のトイレ・風呂場に掲示して、常に配慮した対応を心掛けている。課題が散見された場合は、管理者やユニットリーダーが都度注意するとともに、朝礼時やユニット会議等の場で情報を共有して、発生防止に注力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を心掛け、ご利用者様の立場に立ってお話を傾聴するようにしています。意思疎通が難しいご利用者様に対しては、声や表情でご利用者様の訴えを汲み取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様お一人お一人のペースを大切にし、その人らしい生活を送って頂ける様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナウイルスの影響により訪問はできませんが訪問美容を2ヶ月に1回利用して頂いています。日々の生活の中で、ご利用者様のご希望や好みを伺いながら身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後の下膳の際、味付けや好み等、各ご利用者様に伺っています。簡単な下ごしらえや、お盆拭き等、行って頂いています。季節を感じて頂ける様に親等で工夫しています。年2回、フードサービス推進部による嗜好調査を行っています。	法人フードサービス推進部の献立を基に、手作りの食事が提供されている。食事の「嗜好・満足度調査」を実施し、利用者の希望や好みを反映している。利用者の能力に合わせて、準備や片づけの手伝い、敷地内の畑の野菜収穫やおやつレクを行い、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事・水分摂取量をケアカルテにて記録しています。お一人お一人の状態に合わせて、食べやすい形態で提供しています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし口腔内の清潔を保って頂いています。状況に応じて、ご家族様に相談し歯科受診や歯科往診をしていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアカルテに排泄の記録しています。各ご利用者様の排泄パターンに合わせてトイレへ誘導しています。	「排泄記録」はケアカルテ(タブレット)を活用して作成し、利用者個々の情報を共有している。排泄パターンを把握して先回りケアを心掛け、トイレへの誘導を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や排便を促す飲食物を提供し自然排便を促すように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっておりますが、ご利用者様の状況に応じて曜日や時間をかえて、ゆっくり入浴を楽しんで頂いています。	週2回午前中を基本として、シャワー浴などを取り入れた入浴を支援しているが、2か所の浴槽を活用して、入浴希望者に柔軟に対応している。職員は、利用者の状態や希望に合わせて、ゆっくり入浴を楽しむことを心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明に注意して安心して休んで頂ける環境づくりをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を共有し正しく服薬して頂く様に支援しています。服薬が困難な時は主治医に報告・相談し服薬しやすい形状に変更して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の表情や会話から、ご利用者様の想いを汲み取り楽しみを見つけて頂ける様に支援しています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員と敷地内の畑やベランダに出られ気分転換を兼ねた声掛けをしています。	コロナ禍の中、外出制限が続いているが、併設のデイサービスと合同で誕生会を行ったり、敷地内の畑やベランダでの外気浴・散歩など、利用者それぞれの希望や状態に合わせて、工夫した対応を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族様が管理し預かり金の中から担当職員が必要に応じて支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった際はご家族様とビデオ通話や電話、手紙のやり取りをして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち穏やかな雰囲気を作るように工夫しています。室温や湿度を管理・記録し適温を保つように支援しています。	リビングに置いたソファや広いベランダを活用し、利用者が居心地よく過ごすことができるように配慮している。感染防止対策として定期的な換気・ソリューションウォーターによる消毒を行うとともに、温度・湿度管理による快適な環境作りに注力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で過ごされたり、気の合う、ご利用者様同士でテーブルを囲まれお話やテレビを楽しんで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時、使い慣れた物や好みの物を持参して頂き安心して過ごして頂ける環境づくりを支援しています。	居室には、ベッド、エアコン、比較的大きなクローゼットが設置されていて、利用者は使い慣れた家具やテレビ等を持ち込み、落ち着いて過ごせる居室作りを支援している。毎朝職員が部屋の掃除と換気を行い、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境・整備をこまめに行い安全に生活して頂ける環境づくりに努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600352		
法人名	株式会社 ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	みしまケアセンターそよ風 桜ユニット		
所在地	静岡県三島市萩196-1		
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果市町村受理日	令和5年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の下、それぞれの方が役割をもち、支え合い、個性を発揮する中で共同生活を送ることにより、認知症の進行が少しでも穏やかになるように意図しサービス計画の立案、食事、入浴等その方に合わせた介護、生活相談、健康管理、緊急時の対応、行政手続きの代行、理・美容サービスを提供しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600352-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 2月 27 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、事業所理念を復唱し確認、実践できるように支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により自治会の行事が中止となっており参加できないが職員と一緒に散歩等で外に行かれた際ご挨拶し交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年11月の介護の日に、三島市役所に市内のグループホーム事業所が写真展示をし理解を深めて頂いています。また管理者が認知症キャラバンメイトとなっており定期的に市内の小学校等を訪問し理解を深めて頂いています。。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響により行政から緩和対応に伴い書面開催しています。開催後、議事録とアンケートをご家族と行政に送付し、ご意見やご要望を伺いサービスの向上につなげています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	三島市内のグループホーム連絡会の場や管理者が認知症キャラバンメイトの会合等で情報交換や相談しています。運営推進会議の議事録を提出し市の見解を伺いながら交流を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナウイルスの影響により2ヶ月に一度、身体拘束委員会をセンター長により書面開催し議事録と研修資料を回覧し共有している。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	年1回は研修を受け利用者様の尊厳を守ることをセンター全体で共有し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様があり、権利庇護、成年後見人制度に必要な情報を提供しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、法改定時には管理者より、ご家族様に内容を説明しご理解頂ける様に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議議事録、送付時のアンケートや日々の電話連絡等でご意見、ご要望を伺っています。ご意見箱を玄関に設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンス、日々の申し送り等で職員と意見交換し反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努め給与水準は個々の能力を評価し、契約更新時、賞与考課に反映しています。日々の業務の中で職員と意見交換を行い職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせて研修を受ける機会を設けて適材適所の役割と苦手の克服は成功体験の情報を共有しレベルアップを図っています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市内のグループホーム連絡会など管理者が参加し同業者との交流を図りサービスの向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の実態調査にて、ご本人様と面談させて頂き日常生活の中でのご要望や困っていることを傾聴しサービスにいかし信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の面接にて、ご家族様の困っている事や不安に思っていることを傾聴しサービスにいかし信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の想いを傾聴し必要とされているサービスを見極めセンター長、居宅のケアマネジャーと連携をとり適したサービスが提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を作り、ご利用者様にそれぞれに役割をもって頂く支援を行っています。できる事はご利用者様にお願ひし、出来ないことをサポートさせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を中心に、ご家族様と意見交換をさせて頂きながらご家族の絆や信頼関係を築いて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響により、ご家族様との外出や外泊が難しい状況ではありますが、電話やビデオ電話、手紙等で関係の継続に努めています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを定期的に行いご利用者様同士がコミュニケーションを取りやすい環境を職員が必要に応じて間に入らせて頂きながら支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族様が行政手続き等の依頼や介護相談に来られることがありますので支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中でご利用者様のご要望やご意見を伺い職員間で情報を共有し、ご本人本位の支援が行えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時の面談や居宅支援事業所から情報を基に日々の生活の中で、ご本人様やご家族様から情報を頂き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で日々の申し送りやカンファレンスで情報を共有し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、計画更新や見直しの必要なご利用者様についてカンファレンスを行っています。ご本人様やご家族様の意向や主治医の指示をふまえて介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテに記入、他、日々の申し送りや連絡ノートを活用し情報を共有し実践、介護計画の見直しに活かしています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談し経済状況、ご家族様の健康状態も考慮し可能な限り取り組んでいます。。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス前はデイサービスのボランティアの訪問を楽しまれました。地域資源を把握しご利用者が安全で豊かな暮らしを楽しんで頂ける様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4病院から月に1~2回、往診に来て頂いています。必要に応じて歯科は訪問診療をして頂き皮膚科や眼科等の受診や緊急時の受診等は、ご家族様に協力を得たり職員が対応させて頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連携し週に1回の健康管理やご利用者様に対する対応や医療面での指示等を得ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院のソーシャルワーカーや担当看護師よりサマリーや電話等で情報提供して頂き入院中のご様子や伺っています。退院後の対応等については退院カンファレンスにて情報を得て連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について入居時にご利用者様、ご家族様に指針を説明しに同意して頂いています。終末期の施設での対応については主治医の診断のもと、ご本人様やご家族様に説明し方針を決定後、施設での支援について話し合い同意を得ています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルで職員に周知しているがスキルに個人差も見られる。応急手当や初期対応については日々の業務を通じて実践力を身につけていくように体制を築いています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水総合。火災、夜間想定と7月、11月にデイスサービスと連携を図り避難訓練を行っています。職員間で情報共有し災害対策に取り組み災害備品は3日間を目途に備えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関し事業所のトイレや風呂場に提示して職員が情報を共有し問題の発生防止に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を心掛け、ご利用者様の立場に立ってお話を傾聴するようにしています。意思疎通が難しいご利用者様に対しては、声や表情でご利用者様の訴えを汲み取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人のペースを大切にし、その人らしい生活を送って頂ける様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナウイルスの影響により訪問はできませんが訪問美容を2ヶ月に1回利用して頂いています。日々の生活の中で、ご利用者様のご希望や好みを伺いながら身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後の下膳の際、味付けや好み等、各ご利用者様に伺っています。簡単な下ごしらえや、お盆拭き等、行って頂いています。季節を感じて頂ける様に親等で工夫しています。年2回、フードサービス推進部による嗜好調査を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事・水分摂取量をケアカルテにて記録しています。お一人おの状態に合わせて、食べやすい形態で提供しています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし口腔内の清潔を保って頂いています。状況に応じて、ご家族様に相談し歯科受診や歯科往診をしていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアカルテに排泄の記録しています。各ご利用者様の排泄パターンに合わせてトイレへ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や排便を促す飲食物を提供し自然排便を促すように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっておりますが、ご利用者様の状況に応じて曜日や時間をかえて、ゆっくり入浴を楽しんで頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明に注意して安心して休んで頂ける環境づくりをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を共有し正しく服薬して頂く様に支援しています。服薬が困難な時は主治医に報告・相談し服薬しやすい形状に変更して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の表情や会話から、ご利用者様の想いを汲み取り楽しみを見つけて頂ける様に支援しています。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員と敷地内の畑やベランダに出られ気分転換を兼ねた声掛けをしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族様が管理し預かり金の中から担当職員が必要に応じて支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった際はご家族様とビデオ通話や電話、手紙のやり取りをして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち穏やかな雰囲気を作るように工夫しています。室温や湿度を管理・記録し適温を保つように支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で過ごされたり、気の合う、ご利用者様同士でテーブルを囲まれお話やテレビを楽しんで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時、使い慣れた物や好みの物を持参して頂き安心して過ごして頂ける環境づくりを支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境・整備をこまめに行い安全に生活して頂ける環境づくりに努めています。		